



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20ヶ国60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころからだの飢餓」に応える働きをしています。



一般財団法人

日本国際飢餓対策機構

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



里親さんからの写真とニュースレター1月号の記事を見て喜ぶボリビアの里子達

中央アフリカ難民支援

コンゴ民主共和国駐在のジェローム(ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ)が、3月19日から26日まで中央アフリカ国境近くのボヤボ難民キャンプを訪れ、内戦によって避難している人々のために食料や医薬品配布などの緊急支援を行いました。次号にレポートを掲載する予定です。

沖縄事務所移転のお知らせ

当機構沖縄事務所が**4月7日から下記の新住所に移転**いたします。(同じ那覇市内です)
〒900-0033 沖縄県那覇市久米2丁目25-8
メゾン久米 202号室
電話番号とFAX番号が変更する場合があります。その際は転送となります。

ハッピーイースターセット

協力企業キングダムビジネスでは、4月20日のイースター(キリスト復活祭)に合わせて特別セットを用意。今回は、バングラデシュのフェアトレード組織『アーロン』の刺繍ミニポシェット(648円:サイズ8.5×13cm)と、ヤシの実の殻で作られた十字架の携帯ストラップ(432円)のセットです。

1セット税込1,000円(送料別途200円、2セット以上は同一送付先に限り無料)。

ポシェットは肩から斜め掛けができ、携帯電話入れなどにご利用いただけます。色は白・黒・赤の中から選べます。刺繍のデザインはお任せください。数量限定。



【申込締切 4月末日】
株式会社キングダムビジネス
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888
Web:キングダムビジネスで検索。ハッピーイースターセットから。(販売額の10%はハンガーゼロ活動支援としてJIFHに募金されます)



スマートフォンで「かざして募金」ができます！ ソフトバンクモバイルによる募金サービスにJIFHも参加

3月からソフトバンクモバイルが、非営利団体を応援する社会貢献事業「かざして募金」をスタートしました。この事業は、スマートフォン(アンドロイドのみ、専用無料アプリ必要)を利用して、簡単に募金ができる仕組み(募金集め代行)を提供するもので、当機構も募金を受ける団体として参加しています。

募金はパソコンやタブレット端末を使って、当機構ホームページからでもできます。詳しくは当機構又はソフトバンクモバイルのホームページをご覧ください。(注:領収書発行及び募金者の個人登録はできません)

2014夏 海外ワークキャンプの参加者を募集します

- フィリピン ワークキャンプ**
日程: 7月31日(休)~8月9日(出) 費用: 17万8千円 定員: 12名
 - ウガンダ ワークキャンプ**
日程: 8月18日(月)~30日(出) 費用: 33万8千円 定員: 10名
- 定員になり次第締切、申込みは東京事務所まで。参加にあたり当機構の会員登録が必要となります。また未成年者は保護者の同意書が必要です。

ハンガーゼロ
サポーターを
大募集中!!
現在...
3429口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- フィリピン台風支援に協力します。
緊急募金として _____ 円協力します。
- ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 500円)
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名: _____ 男・女

〒 _____
フリガナ
住所: _____

.....
(電話)
▼申込日: _____ 年 月 日▼NL 号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

いいね
大募集

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジットカード、デジタルコンビニ

今すぐ
募金が
できます!



- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
- 東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 Eマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
- 愛知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター2F
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
- 広島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
- 沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号
TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540

毎月、飢餓対策ニュースを皆様に届けるために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が、送付作業のご協力をして下さっています。

人の心の中に潜む戦争の種

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

昨年末コンゴ駐在スタッフのジェロームより、首都キンシャサから緊急の電話が入りました。彼は声を潜めながら、町の中を戦車が走っている、また至るところから銃撃の音がするから祈ってほしい、と連絡してきたのです。彼は奥さんと小さな娘を安全な場所へ移し、自宅の電気を消して身を潜めていました。私はあらゆる方法でキンシャサで何が起きているのかを探りました。ようやく日本時間の12月30日深夜にニュースが伝わってきました。現大統領の対立候補を支持するグループが政府転覆を図り、同時多発テロを企てたものでした。私は、海外のスタッフを取り巻くすぐそこにある危機を感じました。

コンゴだけではなく、南スーダン(今号に河合朝子さんからのレポートあり)、中央アフリカ共和国、さらにシリア、ウクライナと紛争地域は一向に減ることはありません。紛争の背後には金、ダイヤモンド、銅、そして携帯電話やコンピューターなどに使われている希少金属や石油・天然ガスなどの資源の利権争い、権力闘争があります。これらは私達の暮らしと深く関わっていて、本当は無視することはできません。また、日本を取り巻く近隣諸国との情勢も、これに似たものがたくさんあります。

オランダ出身の司祭でハーバード大などで教えられたヘンリ・ナウエンがその著書の中でこう語っています。「わたしたちはすべて多かれ少なかれ、人間の持つあらゆる形の破綻と関係しているように思われる。貪欲や怒り、好色やねたみ、軽薄さや嫉妬をまったくもたない人などだれ一人いない。わたしたちの破綻は、いろいろな形で行動に現れるが、とくに不法行為、犯罪、戦争のうちで人間の心に端を発しないものはひとつもない」

戦争も人の手によって始められます。そして人間の欲望がその基となっているのです。

人の貪欲さ、権力や名声を得たいという願望、もっと豊かな生活をしたいという欲望が際限なく広がれば、相手の命を奪っても仕方ない、戦争は必然であるとなっていきます。私達の心の中に、実は戦争の種が多くあることに気付かされます。聖書には「欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます」(ヤコブの手紙)と書かれています。世界から本当に飢餓をなくす(ハンガーゼロ)ために分かち合う生き方、自分のためにではなく、隣人のために生きる生き方が大切です。真の平和を築くために「私から始める、世界が変わる」を実行していきましょう。

なぜ？ 飢餓になるの

シリーズ② 「農業投資の少なさ」

本紙1月号掲載のシリーズ①では、飢餓の原因の一つとして「貧困の連鎖」を取り上げました。貧困削減を実現するには、人々に十分な食料を供給すると共に農業生産の増加が不可欠です。そのためには農業に対する投資が必要となります。

しかし人々が貧困の中にあるということは、たいていの場合その国にさまざまな農業に関する設備投資の資金がないということでもあります。

そのために、①灌漑設備がなく、農作物を育てる際に必要な農業用水の供給が不安定になり、収穫も少なくなる②せっかく収穫できた農作物も保管貯蔵する設備がないと不作の時に備えて収穫したものを貯蔵しておくことができな③作物を売りに行くあるいは食べ物を買に行くにも道路が整備されていない。以上のような要因が農作物の生産能力や食物供給に大きな影響を与えています。

貧困対策より効果が5倍

FAO (国際連合食料農業機関)の調査では、農業への投資は貧困対策に対する費用の5倍の効果があるという結果が示されています。理屈では分かっていますが、その国の政府が自国の農業発展のために投資できるまで待つわけにはいきません。JIFHは、今飢餓に苦しんでいる人々の必要に応えるために、現地ですぐに手を差し伸べることでできる団体に協力して、その活動に必要な車両の提供をウガンダ、南スーダン、モザンビーク、タンザニア、パキスタンで2012年に行いました。

収穫量倍増計画の行き着く先

工業先進国の企業は、水が少なくても生育できる、土地がやせていても育ちやすく、害虫に強い、除草剤に強いといった特性を持つ種を開発してきました。自国の農業にとどまらず、一部の援助団体と

組んでこの種を用いてアフリカへの支援を行っています。このような種を蒔けば収穫量が上昇することを開発途上国の農家に認識させ、毎年その種を買う契約をさせるという販売計画があるのです。この種こそ遺伝子組み換え作物を生み出すものです。それは一時的に収穫量を増やしても結局土地を痩せさせ、より多くの化学肥料を必要とすると言われています。



貧困対策という名の下に工業先進国の大企業の思惑や野心に翻弄され、土地を奪われてさらに貧しくなる人々のために、私たちは愛を持って協力し、自立支援のお手伝いを続けて行こうとしています。

内戦拡大で平和が脅かされる南スーダン

内戦による死者1万人
国内外の避難民86万人
避難民の半数は子ども

南スーダンは、2011年にスーダンから分離独立を果たした世界で一番若い国です。長年の紛争後ようやく得た平和でしたが、昨年12月15日にサルバ・キール・マカルディ現大統領の国軍と、彼に解任させられた元副大統領リエク・マジャルに率いられた反政府軍との間で内戦状態に陥りました。内戦は政治的な対立が理由とされていますが、大統領はディンカ族、元副大統領はヌル族であることから、一般市民を巻き込んだ民族対立の抗争となっています。

内戦の被害は10州のうち7州に及び、対立しあう民族を狙った大量殺人やレイプなどの暴力が続いています。国連の推定によると2014年3月現在で約1万人が死亡、86万人近くが住居を追われ、国内・国外難民となりました。その半数が子どもです。

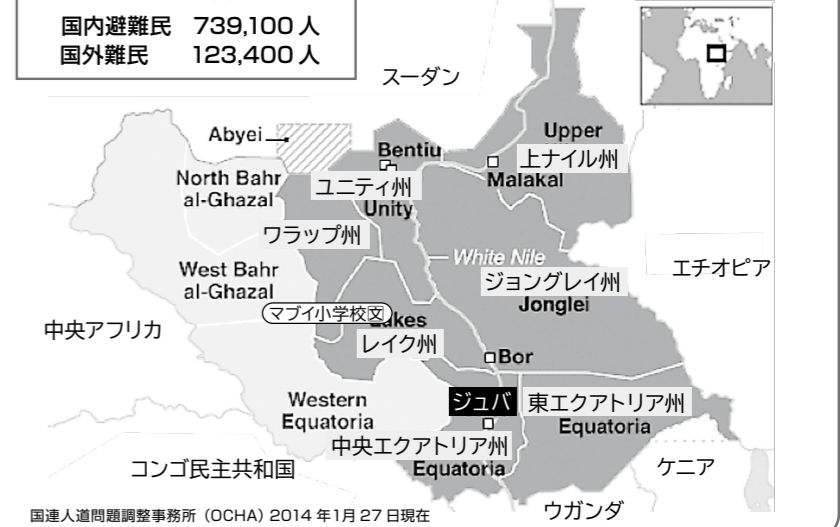
1月24日にエチオピア政府の介入により現大統領と元副大統領間の停戦合意が交わされましたが、両者の言い分は平行線をたどっています。

LIAを通じて学校給食支援

日本国際飢餓対策機構は、2010年から南スーダンのレーク州の州都ルンベックにあるマブイ

南スーダン 紛争地図

国内避難民 739,100人
国外難民 123,400人



小学校に、地元のパートナー団体、ライフ・イン・アバンドンス(LIA)を通して給食支援を行っています。LIA南スーダン所長リチャード・ブレン氏からの連絡に



給食支援をしているマブイ小学校

よると、首都ジュバは内戦ぶっ発当時から現政権軍が制圧して治安を維持しており、全スタッフの安全が確認され通常通りの生活と業務を続けているということでした。2月末には市場が再開、学校も通常通り新年度を迎えたということです。一方で、ルンベックで

はスタッフの一人が土地を追われる事態に陥りましたが、全体的には治安は維持されているということです。マブイ小学校も通常通り新学期が始まり、LIA南スーダンの支援も継続できています。

現在は現政権軍が反政府軍の反乱を制圧していますが、3月初めには首都ジュバで死亡者を出す戦闘があり、一般市民は再び避難を余儀なくされました。

中断している和平交渉は、3月20日に再開されることが期待されています。平和を切望している南スーダンの人々の代表として、リチャード氏は日本の支援者の皆様に次のことを是非祈ってほしいと言っています。

平和への祈り

- 和平交渉と平和の実現のために
- 人々が恐怖や傷から回復できるように
- 暴力や戦いが終わるように

当機構の世界里親会は、本年1月にバングラデシュの中西部マチュパラ地域での支援活動を開始しました。この地域の人々が、安定した収入を得て慢性的な貧困状態から脱出すること、衛生や健康状態が改善されること、そして何よりも子どもたちが継続して教育を受けられることなど、解決すべき課題は山積みです。この地域で1月から里子として支援を受けることになったライハンくん(小学校2年生)の生活をお知らせします。



近所に住む方々の家族へ



三度のご飯はお米に少しの野菜がほとんど



ライハンが通う学校のクラス仲間

バングラデシュ
新地区マチュパラ

希望をもって 歩み出した家族たち

ライハンは両親と3歳年下の妹と暮らしています。お父さんは、年に半分を石工職人として働き(日当200タカで約260円)、残りの半年は小作農民として働いています。小作農の賃金は出来高によるため100~200タカ、更に1ヵ月の労働日数は10~15日なので収入はとても不安定です。ライハンが通う小学校は義務教育なので学費の負担はありませんが、年に3回の試験代と毎月100タカの学用品代が必要です。

お母さんも識字教室で勉強

バングラデシュの人口の半数が1日約100タカで生活をする貧困層に属し、ライハンの家族もその例外ではありません。お母さんは主婦ですが、世界里親会が提供するいくつかのプログラムに参加しています。こ

の地域の女性5人の内で読み書きができる人はわずか1人。お母さんは識字教室に通って読み書きの勉強をしています。健康に関する学びにも参加しています。また、収入改善を目的に組織されている貯蓄グループに加わり、職業訓練も受けています。ミシンを使った縫い物の技術を教わりつつ、貯蓄グループから6,000タカ(7,800円)の融資を受けてミシンを購入しました。近い将来には収入を得たいと願い、練習のために服を縫って近所の人に買ってもらっています。

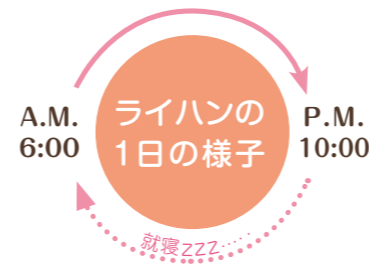
魚や肉類の摂取少なく

ライハンの家族が住んでいる家は、トタンと泥と竹とわらでできています。電気は通っていますが、水道はありません。料理や飲料として



ライハンとお母さん

使う水は、近くのポンプ井戸まで汲みにいきます。幸いこの井戸は整備されているので清潔です。ライハンは水汲みの用事をよく手伝っています。洗濯や沐浴には池の水を使います。三度のご飯はお米と少しの野菜を添えた一皿です。おかずに鶏肉や牛肉を食べることはごくごく稀で、魚を月に2回ほど食べるだけです。ライハンは魚が大好きなのでこの特別なおかずの日は大喜びします。



ライハンは6時起床。歯磨きをして身なりを整えた後、家の手伝いと宿題の残りをします。朝ご飯を食べて10時に学校へ行きます。家の近くにある公立小学校に通っていま



す。国語(ベンガル語)、英語、算数を学んでいます。休み時間には友達と楽しく過ごします。先生は彼のことを、とても素直で優秀な生徒だと評価しています。12時ごろに下校して家族と一緒に昼ご飯を食べま



お母さんはミンシンの練習を毎日しています

大好きなクリケットをしています

す。明るいうちに池に体を洗いに行きます。好きな遊びはクリケットとサッカー。友達のリールくんやいとこと一緒に遊んで午後を過ごします。8時ごろに晩ご飯を食べて、10時に就寝します。

学んだことをさっそく実践

厳しい家計を補うために、子どもたちを学校に行かせるより働きに出すのは、この地域で珍しいことではありません。食べて行くことを優先してしまうために、教育の重要性、必要性を理解するのは困難でした。しかし、世界里親会がこの地域に関わり始めてから、両親は様々な学びや訓練に参加する機会が与えられました。活動が始まって短い期間ですが、特にお母さんはより良い方法で家族の世話をしようという気持ちになっており、教わったことを一生懸命に実践しています。

子どもの成長を助ける
サポーター200名募集
**あなたも
里親に!!**

今後、世界里親会では子どもたちの健康診断、ピクニック、クリスマス会などを実施し、子どもたちが健全に成長できるように協力していきます。保護者や地域に何が 필요한のかを知り、目に見える課題にひとつひとつ取り組んでいきたいと願っています。そのためにはこの活動に加わって子どもたちと共に歩んでくださるサポーターが必要です。みなさまのご協力をお願い致します。

現在、この地区の子ども200名がチャイルド・サポーターを待っています。

●お申し込みは世界里親会まで
TEL:072-920-2226(直通)



明るく健気な子どもたちの笑顔が私を幸せに

炊きだしボランティア中の高峰さん



フィリピン台風緊急支援ボランティア体験記 MIX JAM 高峰義明

1月31日～2月8日、フィリピンレイテ島、タクロバンのボランティア活動に参加させていただき、感謝します。今回も素晴らしい方々とチームを組んで幸せでした！私たち美容院MIXJAMは、普段国内で児童養護施設や知的障害のある方へのボランティア活動をさせていただいております。開発途上国でのボランティアや被災地へのボランティアはJIFHのお世話になって参加しています。

東日本大震災から丸3年、復興はまだこれからというところがありますが、震災の際には海外から多くの支援が届いて、ボランティアとしてその場にいた私たちも本当に暖かい気持ちになりました。このことからいつか少しでもお返しができる機会があれば積極的に参加させて頂こうと思っ

ていました。そんな時にJIFHからフィリピンの被災者支援のボランティアの話を受け、即決で参加を決めました。

たくましく生きる姿をみて

現地に着くと先週まで停電のところが多く、ライフラインなどの復旧が遅れているとの事、すでに災害から3ヵ月が過ぎようとしているに、日本では考えられないような現状でした。人々が悲しみにくれている状況を想像して参加をさせて頂きましたが、それとはうらはらに、たくましく生きる姿をみて教えられることが沢山ありました。

コミュニティでは各家庭を訪問させて頂きました。このような状況なのに皆さん快く迎えてくださり心温まる時間でした。60歳の女性の方が日本語で「私は以前日本の三重県に居ました！」と声をかけてくださり、日本とのつながりを身近に感じることができた場面もありました。

4回の炊き出しでは、乾燥米・大豆・野菜ミックスの配給保存食に日本のカレールー、クリームシ

チューなどを入れて各300食程度調理させて頂きました（美味しいと好評でしたよ）。

地域の小学校も訪問し、1年生と5年生の教室で2回に分けて授業をさせて頂きました。折り紙、紙芝居、箸の持ち方、地理のクイズ、簡単な日本語講座など、時間が足りないくらい熱心に授業を受けて頂けました。

この人々は守られている

今回も私のモットー「辛い時ほど笑顔であかりを灯そう」を意識して参加させて頂きましたが、ボランティアに参加した若いメンバーの熱心に奉仕する姿や明るく健気に振る舞う村の子どもたちを見た時、最高に幸せを感じることが出来ました。

この奉仕する心と村の人々の一生懸命生きる姿から、確かに神様が守って下さっていると感じることの出来るワークキャンプでした。

JIFHの皆さん、キャンプをお世話頂いた現地の皆さん、チームの皆さんに心より感謝します！ありがとうございました。



特別授業で、子どもたちの将来を「夢のなる木」として描きました

誕生！ “愛の手インターナショナル”

日本国際飢餓対策機構 特命大使
愛の手インターナショナル 藤川武彦氏

住所：Ainote International
c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland,
CA94605 U.S.A.
Tel (510) 568-4939
Fax (510) 293-0940

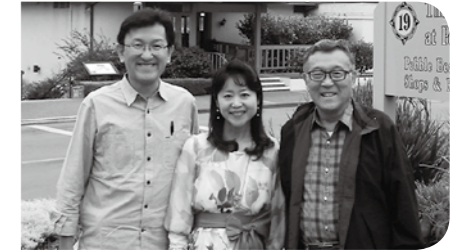
在米日系人家族へチャレンジ

日本国際飢餓対策機構（JIFH）のアメリカ特命大使として責任ある任務をさせて頂き、約3年になろうとしています。これまでにアメリカ国内で、JIFHの活動をサポートして下さる多くの方々からの、尊い献金の取り扱い業務・飢餓対策月間ニュースの配布・サポーターへの連絡など、奉仕をさせて頂いてきました。

しかしJIFHはアメリカ国内での団体として登録されておらず、献金に関しては税金控除の恩恵がありませんでした。そのため、この度2014年2月にNPO法人・Ainote International（愛の手インターナショナル）をアメリカ連邦政府へ登録申請し、正式認可を受ける

ことが出来ました。2012年の10月には親善大使の上原令子さんをサンフランシスコ地区に招いてコンサートを開催し、日本国際飢餓対策機構の働きを多くの皆さんに紹介して頂きました。また2013年10月にも親善大使の森祐理さんを10日間サンフランシスコにお迎えして多くの会場でコンサートを行い、約600人の方々に素晴らしい歌声と世界の飢餓と貧困の現状、JIFHの活動について知って頂くことが出来ました。この4月には再び森祐理さんがロスアンジェルス・サンディエゴの9会場でコンサートを行う予定で、新しいサポーターが多く与えられる事を期待しております。

4月に再び米国でコンサートで支援アピールを行う藤川大使と森親善大使と岡マネージャー



ます。カリフォルニア州には数万人の日系人が住んでおります。恵みの内に生かされている私たちが、飢餓で苦しむ多くの子どもたちや貧困の中で糧を得ることが出来ない人々に、何とかして少しでも必要な支援を届けることが出来ればと願っています。

私の働きがアメリカ国内の全ての日系人家族に伝わる日が来るようにお祈りください。

国際協力+災害時対策タイプも好評



自販機は設置場所に合わせて様々な大きさがあります



2011年2月からハンガーゼロ・募金型自販機の取り組みが始まって3年が経過しました。現在、全国で51台が設置され、募金額は1,410,580円（2014年2月末時点）となりました。あるご協力を心より感謝いたします。ある学校では、校内に3台のハンガーゼロ自販機を設置して下さり「キリスト教精神に基づいて『善を行なう』という理念に適しているところから設置しました。生徒たちが身近なところで社会貢献できる機会となっています」と話して頂きました。また、「周辺に自販機が少ないため近所の方々

も利用して下さる。夜には自販機の照明が防犯になっている。」と報告して下さる所もあります。昨年6月からは、自販機設置者にキリンビバレッジのミネラルウォーター330mlとパン・アキモトのパンの缶詰（96セット）を提供できるタイプも加わり、国際協力と災害時対策を兼ね備えた募金型自販機として関心を集めています。是非この機会にハンガーゼロ自販機の設置をご検討ください。詳しいお問い合わせは、大阪事務所・碓井まで。☎072 (920) 2225

ハンガーゼロ自販機 身近な社会貢献の機会として！

ドリンク1本につき10円がハンガーゼロの募金となります。30円でアフリカでの給食1食分相当となります

●今年も7月～8月に JIFH 海外ワークキャンプを2ヵ所で行います。8面のお知らせに日程を掲載しています。